

令和4年度 学校関係者評価書

令和5年1月19日(木)
学校法人アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている<視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心>の全感覚を開き、正しく導き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が『アソカ学園の教育の中心』です。個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていく【健康ながらだ・おもいやりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

アソカ学園の方針を共通理解したうえで個々の個性を生かした保育を展開していく。また、言葉・表情など、直接的な関りを特に意識をしてきた。更に、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく「子どもの主体性」を昨年度以上に意識し、教員の資質向上にも努めてきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
①保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を職員一人一人が念頭に置き、ねらいを持った保育を展開することを心掛けた。また、日々細かな意識を大切にすることで、丁寧な保育に繋げていくことも実行してきた。	A 教育方法や教育目標に沿い、実施されている。日本の良い伝統を守りつつ、様々な経験や豊かな遊びから、四季を感じられるように行事開催を行っている。
②保育のあり方 幼児への対応	各学年・各クラス、子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、子どもたち一人ひとりがのびのびと、安心して生活できる環境を意識してきた。また、その子にあった言葉掛けを心掛け、子どもたちの発想や表現を肯定する、認めることで子どもの意思を尊重した保育を展開した。	A 教育方法にも掲げられている、子ども一人ひとりの感性と個性を育めるよう、教員間での情報共有がなされている。伝達なども紙媒体以外でも職員専用アプリなどを活用する等、タイムリーに行う努力をしている。
③教師として資質能力、適正等	教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めている。教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、更なる向上が必要と感じる。	B パックグラウンドが違う者同士の集団であるため、どうしても偏りが見られてしまう。だが、そこに着目し、集団での社会人としての底上げも意識し、行動変容を促しているところが伺える。
④保護者への対応	保護者の意見、要望については職員で共通理解し、改善していくように努めている。保護者も、園・職員に対して協調的であるが、さらに保護者の気持ちをくみ取り、より細かな配慮を今後も実現していく必要がある。	A 運動会やお遊戯会など、大きな行事の後には、アンケートを実施する等、他者からの積極的な意見共有に取り組んでいる。意見共有後の意見開示や意見反映における改善案等の見解も開示していただけすると、より促進できるのではないかと考える。
⑤地域の自然や社会との関わり	小学校見学や、施設との連携・協力のもと、園外保育の実施、父母の会主催の古着販売の実施など、昨年と比べて活動を増やしていくことが出来た。また、浜松市の企業を対象に高校生によるフィールドスタディーにて、高校生徒の関わりや、中学生との触れ合いもできた。	A 流行病の影響もあり、例年の行事が活発に行えない現状がある。その状況でも感染対策を行いながら、できる範囲で他園との交流や父母会活動、地域活動をサポートしている。
⑥研修と研究	静岡県私立幼稚園振興協会、浜松市私立幼稚園協会の研修の大半がリモートとなった。対面とはまた異なる空間な為、情勢が落ち着いたら、対面での研修を園でも積極的に行い、教職員の深い学びに繋げていきたい。	A 防犯や新しい遊びの提供ができるよう、職員研修を積極的に行っていている。医療を必要とする園児の受け入れも、医療講習（医師によるエピペン使用方法等）を実施し、全職員が対応できるよう努めている。
⑦外部アンケート	回答率は85.8%。回答内容も幼稚園の現状に満足しているもの多かった。その反面、行事の早期連絡、保育力の向上、配布資料の改善、共働き家庭への配慮等、望む声があった。今できる事の中で最善を尽くしていくよう、今後引き続き努力していく必要がある。	A 配布資料等も直筆からパソコンへと、保護者からの意見を具体的に取り入れ、改善がみられる。行事の早期連絡や個別性に合わせた保育力向上等、継続して努めていただきたい。

*結果の表示方法

- | | |
|---------------------|---------------|
| A 十分達成されている | B 達成されている |
| C 取り組まれているが成果が充分でない | D 取り組みが不十分である |

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

年度毎に、改めてアソカ学園の教育方針、教育目標、教育手段を共通認識、共通理解すること。そして、全ての職員が念頭におきながら、日々の保育につなげていくように実践していく事が重要である。また、教育要領改訂の背景や様々な変化に伴い、保育観の変化が日々の生活にも見られる中、アソカ学園、そして朝田幼稚園としての保育の独自性、「教育」の部分をより一層重視する必要がある。

日々の保育では大人主体の保育から、子ども主体の保育へ意識を向けてきたが、保育に対する捉え方を改めて一人ひとりが見つめ直し、園として保育の一貫性を向上させていく事も必要だと考える。すなわち、子どもたちが中心となって「自ら考え、自ら選択し、自ら動く」主体性を育む保育を引き続き意識して取り組むこと。また、「楽しい」をたくさん探し、その気持ちから「またやりたい」「もっとやりたい」という意欲や、向上心を生む、又はきっかけづくりをし、非認知能力や、幼児期に育てたい10の姿など、「生きる力」「学びに向かう力」が育まれる保育を目指す。

今後も業務のICTを導入し、教職員の労働環境の改善、事務仕事の簡略化を図り、子ども・保育に向き合う時間を増やしていくよう試みる。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施に関して職員の共通理解を図る	学園内及び小学校や専門機関等との情報交換、職員同士の意識の共有を行い保育に取り組んでいく。また、教育要領の内容を職員一人一人が理解し、クラス運営を含め、働き方や職務改善を行う。
ICT及び機器の活用・応用・改善	ICT及び、機材の導入に対する理解、活用するとともに、今後も継続及び改善、機能の追加等を行い、更なる保育の向上及び、資質向上を図る。今後は各職員へのタブレット配布や、保育へのICT導入も検討していく必要がある。
安全管理	今年度は全国的に幼稚園バスの事故や、教職員による暴言や虐待について、メディア等での報道もあり、問題提起も多かった。当園でも改めて全職員にて問題の共有をし、見直し等確認を行った。今後も適宜改善していくことを心掛ける。

6 学校関係からのコメント

アソカ学園の教育目標にも掲げられている、4Hプログラムや教育方法等を軸に、朝田幼稚園独自の保育や教育を展開していると感じる。1つの行事を終えたから終わりではなく、そこからがスタートであり、継続展開していくことこそが個別性に配慮した保育であることを再確認できた。上記でも述べたが、職員1人1人バックグラウンドが違うため、保育の一貫性を向上させていくことは容易ではない。しかしそこに着眼点を置き、子どもたちが中心となって主体性や探求心を育めるよう、伝統を重んじつつも現在に合わせ四季を取り入れた保育展開へと意識して取り組んでいる姿勢が伺える。

さらに貴園が発展していくよう、非認知能力をはじめとする最新の保育トピックスを共有すること。また全職員がそれを共有し積極的に子どもたちへ提供できるよう、保護者も巻き込んだ保育展開を切望する。

令和4年度 自己評価書

令和5年1月13日（金）

学校法人アソカ学園朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている＜視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心＞の全感覚を開き、正しく尊き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が『アソカ学園の教育の中心』であり、個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていきます。

【健康ながらだ・おもいやりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

アソカ学園の方針を共通理解したうえで個々の個性を生かした保育を展開していく。また、言葉・表情など、直接的な関りを特に意識をしてきた。更に、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”を昨年度以上に意識し、教員の資質向上にも努めてきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	
①保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を職員一人一人が念頭に置き、ねらいを持った保育を展開することを心掛けた。また、日々細かな意識を大切にすることで、丁寧な保育に繋げていくことも実行してきた。	A
②保育のあり方 幼児への対応	各学年・各クラス、子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、子どもたち一人ひとりがのびのびと、安心して生活できる環境を意識してきた。また、その子にあった言葉掛けを心掛け、子どもたちの発想や表現を肯定する、認めることで子どもの意思を尊重した保育を展開した。	A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めている。教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、異なる向上が必要と感じる。	B
④保護者への対応	保護者の意見、要望については職員で共通理解し、改善していくように努めている。保護者も、園・職員に対して協調的であるが、さらに保護者の気持ちをくみ取り、より細かな配慮を今後も体現していく必要がある。	A
⑤地域の自然や社会 との関わり	小学校見学や、施設との連携・協力のもと、園外保育の実施、父母の会主催の古着販売の実施など、昨年と比べて活動を増やしていくことが出来た。また、浜松市の企業を対象に高校生によるフィールドスタディーにて、高校生徒の関わりや、中学生との触れ合いもできた。	B
⑥研修と研究	静岡県私立幼稚園振興協会、浜松市私立幼稚園協会の研修の大半がリモートとなった。対面とはまた異なる空間な為、情勢が落ち着いたら、対面での研修を園でも積極的に行い、教職員の深い学びに繋げていきたい。	B
⑦外部アンケート	回答率は85.8%。回答内容も幼稚園の現状に満足しているもの多かった。その反面、行事の早期連絡、保育力の向上、配布資料の改善、共働き家庭への配慮等、望む声があった。今できる事の中で最善を尽くしていくよう、今後引き続き努力していく必要がある。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

年度毎に、改めてアソカ学園の教育方針、教育目標、教育手段を共通認識、共通理解すること。そして、全ての職員が念頭におきながら、日々の保育につなげていけるように実践していく事が重要である。また、教育要領改訂の背景や様々な変化に伴い、保育観の変化が日々の生活にも見られる中、アソカ学園、そして朝田幼稚園としての保育の独自性、「教育」の部分をより一層重視する必要がある。

日々の保育では大人主体の保育から、子ども主体の保育へ意識を向けてきたが、保育に対する捉え方を改めて一人ひとりが見つめ直し、園として保育の一貫性を向上させていく事も必要だと考える。すなわち、子どもたちが中心となって「自ら考え、自ら選択し、自ら動く」主体性を育む保育を引き継ぎ意識して取り組むこと。また、「楽しい」をたくさん探求し、その気持ちから「またやりたい」「もっとやりたい」という意欲や、向上心を生む、又はきっかけづくりをし、非認知能力や、幼児期に育てたい10の姿など、「生きる力」「学びに向かう力」が育まれる保育を目指す。今後も業務のICTを導入し、教職員の労働環境の改善、事務仕事の簡略化を図り、子ども・保育に向き合う時間を増やしていくよう試みる。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施 に関して、職員の共通 理解を図る	学園内及び小学校や専門機関等との情報交換、職員同士の意識の共有を行い保育に取り組んでいく。また、教育要領の内容を職員一人一人が理解し、クラス運営を含め、働き方や職務改善を行う。
ICT及び機器の 理解・活用	ICT及び、機材の導入に対する理解、活用するとともに、今後も継続及び改善、機能の追加等を行い、更なる保育の向上及び、資質向上を図る。今後は各職員へのタブレット配布や、保育へのICT導入も検討していく必要がある。
安全管理	今年度は全国的に幼稚園バスの事故や、教職員による暴言や虐待について、メディア等での報道もあり、問題提起も多かった。当園でも改めて全職員にて問題の共有をし、見直し等確認を行った。今後も適宜改善していくことを心掛ける。

令和4年度 自己評価書

令和4年12月22日
アソカ学園 駒ヶ根幼稚園

幼稚園の教育目標

- 日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあがげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○望ましい生活習慣の身についた子に
 ○思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育員に取り組んでいる。活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と共に環境に適した保育内容を組み立てている。また、「幼児期に育てたいの力」を常に意識し、保育内容や授業の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	A
②保育のあり方 幼児への対応	今年度は、いままで以上に子どもたちが試行錯誤し作り上げていく活動を目標に、援助の方、お手伝いの方等職員等と話し合っていいる。活動が終わったら隊に「育てたいの力」のどこに力を入れたのか確認し、次の活動につなげていく。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーチットあるいは遊びなど園内のあるこどもたちで発展づけられるよう発展づくりを行っている。	B
③教師としての資質 能力、適性等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を行ったり、他の先生に提案をしたりして保育の質を高め合っていく。	B
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によつてどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に応じるとともに、日々の家庭を通しての様子を聞いて、日々の取り組みを教えていくようになっている。今年度もコロナのため、3密をさけた保育をみんなで検討し取り組んでいるが、現状、密をさけることが難しい。保護者の意見、希望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話題を高め合っている。今後も状況に応じた機動対応を考えてまいりたい。	B
⑤地域の自然や地域との関わり	近くの公園に異年齢出かけ四季を感じたり、幼稚園バスに乗つてアソカ学園の幼稚園や、園外での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、子ども館など）などに一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れる。また、父母の会企画のもと絵本の読み聞かせボランティアを募り、クラスごとに楽しく絵本を読んでは交流ができるuezanitaが、今後もコロナの状況に鑑みて変に対応し、交流できる活動を探つていただきたい。	B
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行なうことで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、よりよい保育を目指していく。先生一人一人の先生全員で行なう研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図つていてる。	A
⑦外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認するところで課題も見つけるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えてまいりたい。	A

- ※ 結果の表示方法 A 十分達成されている
 C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子どもも一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より引き出す環境をみんなどで考へ、表現活動や運動遊び等自由に活動を行うことにより、行事や日々の活動を行なうことができる。この今まで以上の活動の中でも、理解して下さり、保護者がからの今まで以上の活動の中でも、理解して下さり、保護者がからの大切さをあらためて実感した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行ない、部屋の換気や机や水場、バス等子どもたちが触れるものの消毒等を行なっている。また、ご家庭にもお風呂を楽しむ場合は早めに休むよう呼びかけています。また、朝や夕方には、ボール遊びなど、身を動かす自由な遊びでは、なわかけ、子どもたちが自ら運動活動を楽しむよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサークットやスポーツも行なった。	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行なっている。また、ご家庭にもお風呂を楽しむ場合は早めに休むよう呼びかけています。また、朝や夕方には、ボール遊びなど、身を動かす自由な遊びでは、なわかけ、子どもたちが自ら運動活動を楽しむよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサークットやスポーツも行なった。
今年度も例年行なっていた介護センター訪問や小学校との交流はできなかつたが、ソカラ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、半年ごとに園外に出かけた。来年も歩道に応じて、園外保育が可能な場所、密にならないところなど社会・地域とのかかわりを深めることを検討し、取り組んでいきたい。	今年度も例年行なっていた介護センター訪問や小学校との交流はできなかつたが、ソカラ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、半年ごとに園外に出かけた。来年も歩道に応じて、園外保育が可能な場所、密にならないところなど社会・地域とのかかわりを深めることを検討し、取り組んでいきたい。
園庭の遊具など、100バーセント汚がをしないといふものではないが、子どもたちの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあいが必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあつていく。園バスにもドライブレコーダーを配置して、今後も交通安全にも心掛けいい、園バスの体調管理を行なっている。また、園児のバス乗降確認を3人態勢とし、登降時の園児の健診も行なう。毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、南消防署による園舎点検などを行なっている。	園庭の遊具など、100バーセント汚がをしないといふものではないが、子どもたちの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあいが必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあつていく。園バスにもドライブレコーダーを配置して、今後も交通安全にも心掛けいい、園バスの体調管理を行なっている。また、園児のバス乗降確認を3人態勢とし、登降時の園児の健診も行なう。毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、南消防署による園舎点検などを行なっている。

令和4年度 自己評価書

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもとの自由と自律ある望ましい教育を開く。
<健康ながらだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもたちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況	自己評価
①保育の計画性	活動を計画する際、指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てる。また、「幼児期に育てたい10の姿」を常に意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていく。	B
②保育のあり方・幼児への対応	子どもが自らの考えで活動やあそびを作り上げていくことを目指し、援助の仕方・声の掛け方等職員で日々話し合っている。活動が終わった際には「育てたい10の姿」のどこに力を入れたかを確認し、次回の活動につなげている。また特別な支援が必要な園児が多い中、多くのニーズにどのように答えていくか日々検討している。	B
③教師として資質、能力、適正等	教務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を行っている。来年は更に内容を深め、これからのお子様たちに必要な力を育てるための、保育のあり方にについて、さらに深めていきたい。	B
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えいくようにしている。今年度は、徐々に行事も増やし、保護者参加人数も増やしました。今年度は、保護者から見える幼稚園になるよう努力した。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合い、模索しながら、行っている。今後も状況に応じた臨機応变な対応を考えていきたい。	B
⑤地域の自然や社会との関わり	今年度は、幼稚園バスに乗っての園外保育も範囲を広げていった。アソカ園園での野菜の収穫など、月に一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れるようにしている。また、父母の会企画のもと、役員さんが日を決めてボランティアを募り、少人数ではあるが子どもたちの遊びの援助を通して、交流を行っている。	B

⑥ 研修と研究

浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、個別参加を行うことで、自らの幅をひろげようと努めた。また、終礼の時間を利用して、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行っており、よりよい保育を目指している。

B

年に数回だった学年会も回数が増え、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。夏の職員研修では、京都大学院の明和教授をお呼びして、コロナ禍において子どもたちのマスク着用による影響などの講義を受けた。

⑦ 外部アンケート 回答率は84%。回答内容は概ね良好だが、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができたため、今後の保育について、職員全員で考えていきたい。

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。コロナ禍の中、状況を理解して下さり、保護者からの今まで以上の支援・協力により、行事や日々の活動を行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫な身体に	なるべく多く体を動かす活動を取り入れ、外で元気にしておく。子どもたちが自発的に体を動かそうと思えるように、多くの選択肢を作り楽しみながら運動能力を高める工夫をした。
社会・地域とのかかわり	今年度も例年行っていた小学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験を受け入れた。また、ZOOMによる障害者施設との音楽交流を行った。幼稚園児がみんなで歌を歌い、施設の子どもたちは手に持った打楽器などを鳴らして楽しいひと時を過ごした。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに園外に出かけた。
安全管理	園庭の遊具など、100ペーストukeがをしないというものではないが、子どもたちの体の発達においては大切なものの、幼稚園での遊びが必ずしも安全なあそびに限られないことを感じ、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあっていく。園バスに装備されているドライブレコーダーも有効に使いながら、職員間でバスの安全運行について定期的に話し合いをしている。今年度発生した園児置き去り死亡事件を受けて、静岡県の全園対象の立ち入り検査を受け、安全運行に関しての指摘事項はなく、職員間での安全議論会議を学年初めに強化して行うよう促されたので、今まで以上に行っていく（来年度、バスには安全装置を取り付ける予定）。毎日の、乗務員のアルコールチェックも行っている。

毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っている。

令和4年度 学校関係者評価書

(学) アソカ学園 美波幼稚園長 橋本憲幸
美波幼稚園 学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

健康からだ おもいやりの心 たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ちあいながら豊かな感性と健康な心身が育つように保育実践する。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	コロナ禍継続を常に念頭に置き、長期の見通しや職員間の共通理解を密にし、日々の保育運営を実践した。	A	コロナ禍継続の中であっても、良質な教育活動が実践されていました。教職員のチームワークが良いと感じます。
② 保育のあり方 幼児への対応	健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事など、教職員間の情報交換を十分とり保育に努めた。	A	教職員間でしっかりと情報共有が出来ていて、子ども理解に繋がっています。
③ 教師として資質能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力（人間性と社会性）アップを心掛け、社会動向にも意識を向けられるように努めた。	A	明るく元気な先生たちが子どもと一緒に生活してくれています。
④ 保護者への対応	コロナ禍継続の中でも、参観会や教育行事等に来園してもらえる機会を増やし、理解を得ることができた。	A	コロナ禍継続の中でも、来園可能な教育行事が増えて良かったです。
⑤ 地域の自然や社会との関わり	コロナ禍継続で中学・高校生との接点も薄くなったりが、同学園内の園を訪問し園児と交流を持っている。	B	同学園内の交流が頻繁にあり、学園ならではの教育活動として有効を感じる。
⑥ 研修と研究	全教員揃っての研修に時間を費やせていながら、良きも悪しきも他園で起きた事象に当たり、適時に熟議の時間を教員間で持っている。	B	毎日の終礼（職員対話の時間）が充実できている。自己研修（個々の課題）が充実できれば、尚良いです。
⑦ 外部アンケート	12項目中3項目で2・1評価がゼロとなり、4項目でA評定が80%以上で、概ね良好の評価を得た。	A	保護者の理解と好意的な結果です。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多彩な植物や昆虫等に触れる機会が多くあり、興味関心を高めている。
- ・長期にわたるコロナ禍でも、できる限りの感染対策を実施しながら、参観会や教育行事に保護者を迎えることができ、成長を見て頂くことができた。
- ・近年、「美波らしい保育」を教職員の心柱とし充実を目指している。園児の心と体と脳がエモーショナルに動き、成長エネルギーに変換できるような機会、教師の関りを展開するよう努めている。
- ・発達支援の必要な園児に加え、通常よりも厚い寄り添いの必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践が進められた。
- ・園児個々の成長度合いを考慮した日常保育、多岐にわたる保護者対応、教員の現場保育力を支える為の「人間力」向上に繋がる職員間のコミュニケーションを重視した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
良質な保育実践に向けて	多面的で良質な幼児教育の向上に努め、「賢く・優しく・逞しく・朗らか」な園児が育つ園を目指す。保護者にも「美波らしさ」の理解を深める為の見える化を図る。
発達支援が必要な園児、順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、より良い成長に向かう支援をする。
働き方改革に伴う保育と他業務の質低下防止	勤務時間明細化の中で、教職員間の充実した連携やスキルアップ等、多面的で良質な教育運営に努める。また、補助教員確保と明瞭な勤務シフト構築、スキルアップにも努める。

令和4年度自己評価書

令和4年12月15日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
◇ 健康ながらだ ◇ おもいやりの心 ◇ たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ち合いながら豊かな感性と健健康な心身が育つように保育実践する。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
①保育の計画性	コロナ禍継続を常に念頭に置き、長期の見通しや職員間の共通理解を密にし、日々の保育運営を実践した。	A
②保育のあり方	健康観察や適切な言葉がけ、保育中の出来事など、教職員間・幼児への対応の情報交換に時間を十分取り保育に努めた。	A
③教師として資質能力、適正等	良質な保育運営を支える為の「人間性と社会性」アップを心掛け、社会動向にも意識を向けられるように努めた。	A
④保護者への対応	コロナ禍継続の中でも、参観会や教育行事等に来園してもらえる機会を増やし、理解を得ることができた。	A
⑤地域の自然や社会との関わり	コロナ禍継続で中・高校生との接点も薄くなつたが、同学園内の園を訪問し園児との交流を持つている。	B
⑥研修と研究	全教員についての研修に時間を費やせていないが、良きも悪しきも他園で起きた事象に当たり、適時に熟議の時間を教員間で設けている。	B
⑦外部アンケート	1.2項目中3項目で2、1評定がゼロとなり、4項目で4評定が80%以上で、概ね良好との評価だった。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている C 取り組みが充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多彩な植物や昆虫等に触れる機会が多くあり、興味関心を高めている。

長期に渡るコロナ禍でも、できる限りの感染対策を実施しながら、参観会や教育行事に保護者を迎えることができ、成長を見ていただくことができた。

近年、「美波らしい保育」を教職員の心住とし充実を目指している。園児の心と体と脳がエモーショナルに動き、成長エネルギーに変換できるような機会、教師の闘りを開拓するよう努めている。

発達支援の必要な園児に加え、通常よりも厚い寄り添いの必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践が進められた。

園児個々の成長度合いを考慮した日常保育、多岐にわたる保護者対応等、教員の現場保育力を支える為の「人間力」向上に繋がる職員間のコミュニケーションを重視した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①保護者の成長度合い	多面的で良質な幼稚園教育の向上に努め、「賢く・優しく・逞しく・明らか」な園児が育つ園を目指す。保護者にも「美波らしさ」の理解を深める為の見える化を図る。
②保護者理解の強化	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、より良い成長に向かうよう取り組む。
③職員改革による組織活性化	働き方改革に伴う、保育と業務の質低下防止
④職員の成長度合い	ここ数年続く課題で、業界的には非常に難しい取り組みである。勤務時間明細化の中で、教職員間の充実した連携やスキルアップ等、多面的で良質な教育運営に努める。また、補助教員確保と明瞭な勤務シフト構築、スキルアップにも努める。

令和5年1月31日

令和4年度 学校関係者評価書

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園学校関係者評価委員会

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園長 田村都弥

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる

子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。

○健康ながらだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』

○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	計画に子どもの姿を反映していくため、より深く子どもたちを理解したいと考えている。	A	大きな柱の計画がある中で、臨機応変に保育活動を進めていた。
② 保育のあり方 幼児への対応	通園バスや園庭の新しい遊具を含めた園庭での安全管理の方法を改めて確認した。	A	今年度は特に、安全面に関して改めて再確認している。
③ 教師として資質 能力、適正等	安全管理や知識・技能の研修に積極的に取り組んでいる。	B	担任をしていない子の事もしっかり把握していて、園全体で子どもを見ている。
④ 保護者への対応	参観会やPMT活動を再開するなど、感染対策をしながら少しずつ広げている。	A	アプリで日々の活動を写真も使いながら報告することはとても分かりやすい。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	木工体験・サッカー教室等、地域の企業の協力を得て、興味を持って楽しめた。	B	積極的に新しい体験活動を取り入れ、園外保育も工夫している。
⑥ 研修と研究	バスや園舎内での安全管理等について園全体で見直した。	B	保育研究しながら、エピソードトークで実際の子ども理解へつなげている。
⑦ 外部アンケート	「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が98%以上と良好であった。	A	98%以上と各項目でかなりの満足度は納得できます。

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～大人も子どももワクワク！～

- 意欲がつながる：サークルタイム（あしたはなにする？）の時間を設け、子どもたちの声を取り入れるなど、主体性を活かせるような保育計画の再構成が出来ている。
- 人とつながる：感染対策をしながら異年齢交流やPMT活動、地域の方との触れ合いなど、随時状況を見ながらできる範囲で広がりを持つことが出来た。
- 保護者とつながる：昨年から引き続き感染対策しながらできる方法（アプリや電話）での情報提供や連絡を取るようにしている。また、PMT活動や参観会など実際の幼稚園の様子を感じてもらえるものも、できる範囲で積極的に行っている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
人や社会とのつながりを意識した活動を積極的に計画する。	地域とのつながりや人と人との触れ合い等は、これまでコロナ禍の影響があり、子どもたちが経験できなかったことがある。そこを補っていけるようPMT活動もこれまでの枠を超えて、様々な人との触れ合いを求めて計画をする。また、異年齢児交流なども積極的に取り入れる。
教師としての更なるスキルアップを進めていく。	エピソードトークを発展させながら、園全体で子ども理解を深めていく。また、普段から研修に対しての意識を高く持ち、定期的に園内でお互いの保育を見せ合ったり、子ども理解につながる話し合いを持ったりして教師同士が確認し合う時間を設ける。

令和4年度 自己評価書

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

1 幼稚園の教育目標	日本のよい伝統を守り、21世紀を中心的に築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。 ○健康ながら ○おもいやりの心 ○たくましい創造力		
2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）	『つながる教育』 ○人ととの触れ合い ○家庭との連携 ○期待や意欲を持つ		
3 評価項目の達成及び取組状況			
評価項目	取組状況	自己評価	
① 保育の計画性	計画に子どもの姿を反映していくため、より深く子どもたちを理解したいと考えている。	A	
② 保育のあり方 幼児への対応	通園バスや園庭の新しい遊具を含めた園庭での安全管理の方法を改めて確認した。	A	
③ 教師として資質 能力、適正等	安全管理や知識・技能の研修に積極的に取り組んでいる。	B	
④ 保護者への対応	参観会やPMT活動を再開するなど、感染対策をしながら少しずつ広げている。	A	
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	木工体験・サッカー教室等、地域の企業の協力を得て、興味を持って楽しめた。	B	
⑥ 研修と研究	バスや園舎内での安全管理等について園全体で見直した。	B	
⑦ 外部アンケート	*「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が98%以上と良好であった。	A	
* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である			

3つの「つながる教育」～大人も子どももワクワク！～	
● 意欲がつながる：サークルタイム（あしたはなにする？）の時間を持つなどもたちの声を取り入れるなど、主体性を活かせるような保育計画の再構成が出来ている。	
● 人とつながる：感染対策をしながら異年齢交流やPMT活動、地域の方との触れ合いなど、随時状況を見ながらできる範囲で広がりを持つことが出来た。	
● 保護者とつながる：昨年から引き続き感染対策しながらできる方法（アプリや電話）での情報提供や連絡を取るようにしている。また、PMT活動や観覧会など実際の幼稚園の様子を感じてもらえるものも、できる範囲で積極的に行っている。	
5 今後取り組むべき課題	
課題	具体的な取り組み方法
地域とのつながりや人ととの触れ合い等は、これまでコロナ禍の影響があり、子どもたちが経験できなかったことがある。そこで補つていけるようPMT活動もこれまでの枠を超えて、様々な人の触れ合いを求めて計画をする。また、異年齢交流なども積極的に取り入れる。	人や社会とのつながりを意識した活動を積極的に計画する。
エピソードトークを発展させながら、園全体でこども理解を深めていく。また、普段から研修に対しての意識を高く持ち、定期的に園内でお互いの保育を見せ合ったり、こども理解につながる話し合いを持つたりして教師同士が確認し合う時間を設ける。	教師としての更なるスキルアップを進めていく。

令和4年度 百花幼稚園学校関係者評価書

令和5年2月1日

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる

子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を考慮しながら教育を進めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	コロナ禍の中でも、活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A	園児の活動を最優先に考えながら、できる限りの企画を立て実践できた。父母の会は、夏祭りの昼間の夜店や餅つきも3回は園児にも体験ができた。
② 保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A	園児のやりたいことや表現の自由を認めることを大切にして、任せたり、見守ったりして程良い援助を心掛けた。
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B	通常の教育活動はもちろんのこと、様々な行事にも園児の活動をイメージして、細心の注意を払って活動を実践できた。 また、学年団の計画、相談を重視して取り組むと共に、職員全体での活動も共同・協力的に実践できた。
④ 保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B	「れんらくアプリ」は、ほぼ毎日、園児の成長や特徴的な活動の様子を詳細に伝達できた。また、気になる園児の様子は、的確に電話連絡できた。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年に比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかつたことが残念であった。	B	園外保育が毎学期実施することができた。 中学校3年生の家庭科の保育実習を受け入れたり、大根堀りを保護者の実家と協力して地域の畑で行ったりして円滑な実践ができた。
⑥ 研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	B	コロナ禍で会合への参加は少なかった。園での研修は毎日の終令で話し合ったり、行事の後に、反省会を行ったりして研修を深めている。
⑦ 外部アンケート	回答率は92%と去年と比べてあがりました。ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A	肯定的な回答が多いため、否定的な意見にも目を向けて、今後の実践に生かすよう考慮した。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※子どもたちが安心して活動に取り込めるように、教師が肯定的な言葉掛けを心掛けて、子どもたちの長所をたくさん捉えるように心がけている。子どもたちも肯定的な言葉掛けをしてもらうことで安心して園生活を過ごしている。

※子どもたちが自分で判断して行動できるアクティブラーニング的（主体的・対話的・深い学び）援助を心掛けた。

※今年度もコロナ感染予防のために活動が制限されることも多くあったが、活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	コロナ感染拡大が続く中で、保護者が安心して園児を登園させることができる情報や対応をしていく。 行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していく。 行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。
幼稚園において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。 アソカ学園の理念である「遊びから想像へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力性をさらに高める保育の実践にあたりたい。

令和4年度 百花幼稚園 自己評価書

令和5年1月18日

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる

子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を考慮しながら教育を進めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	コロナ禍の中でも、活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A	
② 保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A	
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B	
④ 保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B	
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年に比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかつたことが残念であった。	B	
⑥ 研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	B	
⑦ 外部アンケート	回答率は92%と去年と比べてあがりました。ほぼ肯定的な回答が占めています。	A	

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※子どもたちが安心して活動に取り込めるように、教師が肯定的な言葉掛けを心掛けて、子どもたちの長所をたくさん捉えるように心がけている。子どもたちも肯定的な言葉掛けをしてもらうことで安心して園生活を過ごしている。

※子どもたちが自分で判断して行動できるアクティブラーニング的（主体的・対話的・深い学び）援助を心掛けた。

※今年度もコロナ感染予防のために活動が制限されることも多くあったが、活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	コロナ感染拡大が続く中で、保護者が安心して園児を登園させることができる情報や対応をしていく。 行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していく。 行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。 アソカ学園の理念である「遊びから想像へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力性をさらに高める保育の実践にあたりたい。